

金利上昇と国内債券の投資魅力度：外国人投資家が先行

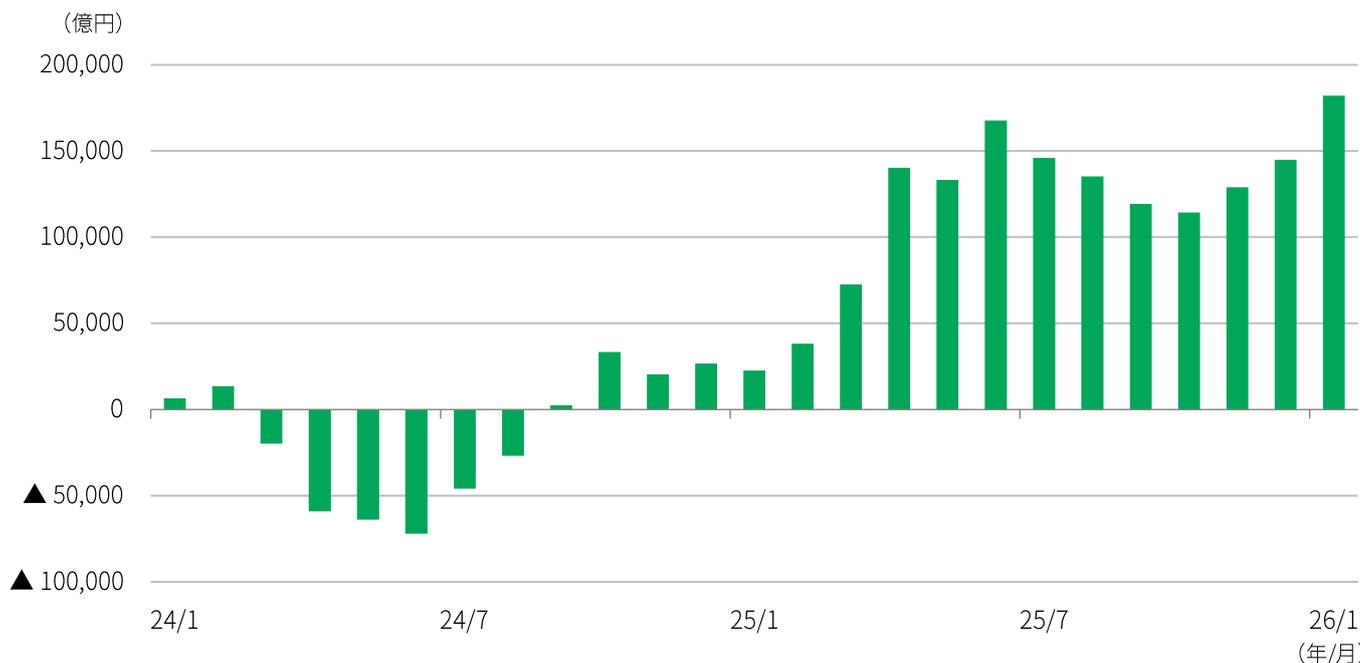
財務省のデータが告げる「日本の債券」への資金流入

「投資といえば株式」と捉えている人が多いのではないのでしょうか。新NISAでも多くの投資家が成長を期待して株式に資産を振り向けています。しかし日本の「債券」が、世界のプロ投資家から大量に買われていることにお気づきでしょうか。本レポートでは、財務省の最新データから読み解ける動きについて解説します。

昨年から外国人投資家の国内債券投資が増加

- 財務省が毎週公表している「対外対内証券投資」という統計で「外国人が日本の株式や債券をいくら買ったか（対内）」が分かります。
- このデータによると、外国人投資家の日本債券買いの傾向は2024年末から始まりましたが、2025年に入るとそれは更に力強いものとなっています。
- なぜ、世界の投資家たちは、わざわざ日本の債券を買っているのでしょうか？ 答えはシンプルです。「日本の金利が、投資対象として十分に魅力的になったから」です。

対内証券投資（中長期債） 期間：2024年1月～2026年1月、月次

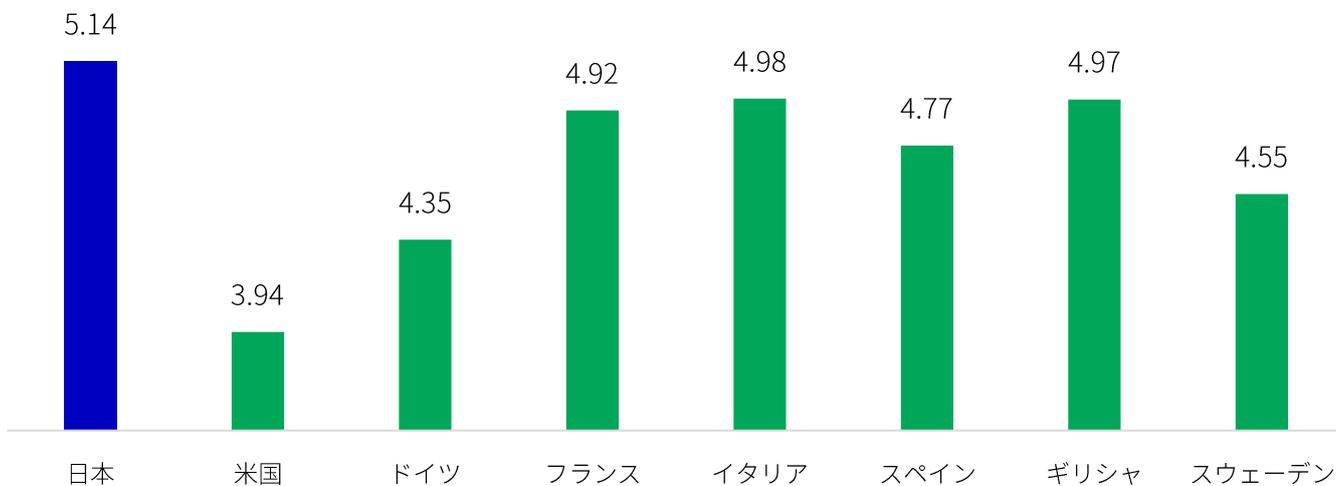


出所：財務省のデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成。月次データの12か月累積値。

外国人投資家にとって、為替ヘッジ後の利回りは日本国債が最も高いことに注目！

- 主要先進国の10年国債利回りを比べると、日本国債の利回りは約2.1%です。現状、米国が4%前後、ドイツが約2.6%、フランス、イタリア、ギリシャ等は約3.2%で依然として日本国債の利回りは他国を下回っています。
- ところが、為替ヘッジをかけた投資を考えると、この絵は大きく変わります。例えば、米国の投資家にとっての為替ヘッジ後の利回りは下図の通りで、日本国債は唯一5%台となり、主要先進国の中で最も高い利回りとなります。ユーロ圏の投資家にとっても状況は同様です。

米国投資家にとっての利回り（為替ヘッジ後）（%） 2026年2月28日時点



出所：ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成。為替ヘッジコスト/プレミアムはブルームバーグ算出のデータを使用。

※為替ヘッジ後の利回りは、各国の10年国債利回り-3ヵ月為替ヘッジコスト、もしくは各国の10年国債利回り+3ヵ月為替ヘッジプレミアムで計算。

※本図表の数値は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

ご留意いただきたい事項

- 本資料は、マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「当社」といいます。）が作成した情報提供資料です。
- 当社が特定の有価証券等の取得勧誘または売買推奨を行うものではありません。
- 本資料は、信頼できると判断した情報に基づいておりますが、当社がその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の記載内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更される場合があります。
- 本資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 本資料の一部または全部について当社の事前許可なく転用・複製その他一切の行為を行うことを禁止させていただきます。

マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第433号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会